
編集後記

コンピューター 2000 年問題などのため緊張とともに迎えた平成 12 年もはや 12 月末となり、間もなく新年を迎えようとしております。先生方には何かとお忙しい毎日かと存じますが、お手元に日本透析医会雑誌 15 巻 3 号をお届けします。

この 1 年を振り返ると、透析関係でも地震、噴火、水害などの災害、C 型肝炎など感染症の集団発生、あるいは空気塞栓など医療事故が続き忙しい年でした。いずれも透析患者さんにとって、治療、生活や QOL だけでなく生死にかかわる問題で、われわれにとりこれらへの対策は、とりすぎてもとりすぎることはないことばかりです。そのため本号では特に危機管理に関する論文を多く掲載し、皆様のお役に立つようにしました。いずれも優れた有用な論文です。特に、千葉県の某施設で C 型肝炎の集団感染が発生しましたが、これに関する千葉県の報告書は非常に貴重なものです。また、2 つの支部から寄せられた災害に対するマニュアルは非常に具体的に記されており、参考になります。

本誌は今まで主として広報委員会が編集を行い発行してきましたが、今後は研修委員会も協力して編集に当たることになりました。研修委員会では年に 2 回、春と秋にセミナーやコンセンサスカンファレンスを開催してきました。また、学術研究に助成をしたり、各支部での学術集会における特別講演に補助をしてきました。これまで、これらの内容をそれぞれ論文としてまとめていただき、本誌に掲載してきましたが、今後はこれらの論文の編集に研修委員会も加わり、共同で作業を進めることになった次第です。これによって本誌の内容がさらに充実したものになるものと考えております。

臨床あるいは研究に関する論文はそれぞれ私共の日常の透析医療に直ちに役立つ優れたものばかりですので、ご熟読下さい。

本誌が A4 判と大型の雑誌になり、内容も一新して 1 年がたちました。広報委員会ではこれまでも先生方のお役に立つ雑誌とすべく努力してきましたが、次号から 21 世紀を迎えますので、それにふさわしい内容のものとしたく願っております。そのために、先生方のご意見やご希望、ご提案などをどしどし委員会までお寄せ下さるようお願いいたします。また、先生ご自身の論文もご寄稿下さるようお願いしております。

間もなく 21 世紀となりますが、次世紀こそ真に良質の透析医療を行うものであるように、日本透析医会も、またわれわれ委員会も全力を尽くして努力していきたいと考えております。

先生方にはどうぞよい新年、そしてよい新世紀をお迎え下さい。

広報委員会委員長 飯田喜俊